

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

整理番号 1598007931  
発送番号 320331  
発送日 平成15年 9月 9日

## 拒絶理由通知書

特許出願の番号 平成10年 特許願 第262714号  
起案日 平成15年 9月 5日  
特許庁審査官 杉山 豊博 9038 3T00  
特許出願人代理人 作田 康夫 様  
適用条文 第29条第2項、第37条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

### 理 由

1. この出願は、下記の点で特許法第37条に規定する要件を満たしていない。

### 記

請求項4～13について、  
特定発明（請求項1）は、オイルフリースクリュー圧縮機において、モータの回転速度と雄ロータまたは雌ロータの少なくとも何れかの回転速度が同じとしたものであり、第1の関連発明（請求項2～3）は、雄・雌ロータのいずれかに形成された回転軸とモータ軸とを一体の回転軸としたもの、雄ロータ・雌ロータのいずれかの軸の一端側に第1の歯車を、モータ軸の一端側にこの第1の歯車と噛み合う第2の歯車を設け、この第1の歯車と第2の歯車の歯車の歯数比を実質的に1：1にしたものである。

これにより上記特定発明と上記第1の関連発明は、増速装置を不要にして圧縮機ユニットの構造を簡素化することにある。

これに対して、第2の関連発明（請求項4～7）は、オイルフリースクリュー圧縮機において、高周波電動機の回転速度と雄ロータまたは雌ロータの少なくとも何れかの回転速度が同じとしたものである。

これに対して、第3の関連発明（請求項8～12）は、オイルフリースクリュー圧縮機において、高周波インバータで駆動される高速モータを前記圧縮機本体の吸込側に接続し、前記高速モータはモータロータが形成されたモータ軸と、このモータ軸を回転支承する第3の軸受と、この第3の軸受を潤滑する潤滑油の高速モータ内部への侵入を防止する第2の軸封装置とを有し、前記第1、第2及び第3の軸受を互いに同一のものとし、前記第1の軸封装置と前記第2の軸封装置とを同一のものとすることで、部品の共通化による低コスト化を図るものである。

また、第4の関連発明（請求項13）は、インバータにより圧縮機本体の回転速度を制御するオイルフリースクリュー圧縮機において、前記圧縮機本体の下流側にこの圧縮機本体で圧縮された作動空気を冷却する空気冷却器を、この空気冷却器のさらに下流に逆止弁を、この逆止弁の上流側から分岐し放気クーラと放気弁とを有する放気管路を夫々設け、さらに前記圧縮機本体の起動時および無負荷運転時には放気弁を開、負荷運転時には放気弁を開とする放気弁の制御装置を設けアンローダ装置を不要にするものである。

そして、上記特定発明に記載される発明と上記第2の関連発明及び上記第3の関連発明に記載される発明に共通する課題は、増速装置を不要にして圧縮機ユニットの構造を簡素化することにあるが、この課題は本願出願前に解決されており（下記刊行物1～2）、本願出願時未解決の課題ではないから、上記各発明は特許法第37条第1号の関係を満たさない。

また、上記各発明に共通する解決しようとする課題に対応した発明特定事項である、モータ或いは高周波電動機の回転速度と雄ロータまたは雌ロータの少なくとも何れかの回転速度が同じとしたものは、下記刊行物1～2に記載されており、解決しようとする課題に対応した新規な発明特定事項である主要部が存在せず、上記各発明は、特許法第37条第2号の関係を満たさない。

また、上記特定発明に記載される発明と上記第4の関連発明とでは、上記特定

発明における解決する課題が同一であるとも、解決しようとする課題に対応した新規な発明特定事項である主要部が一致しているとも認められない。

さらに、上記各発明は、特許法第37条第3号、第4号、第5号に規定する他のいずれの関係も満たさない。

この出願は特許法第37条の規定に違反しているので、請求項1～3以外の請求項に係る発明については同法第37条以外の要件についての審査を行っていない。

2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

#### 記

請求項1～3について、

1. 特開昭61-205388号公報

高周波モータで直接スクリューロータを駆動するスクリュー流体機械である点、及び該スクリューロータと高周波モータがスライドで直結されている点。

2. 実願平04-016469号（実開平05-069389号）のCD-ROM

スクリュー型ポンプにおいて、一方のロータの回転軸とモータのロータが固着されている点。特に、図1。

3. 特開平03-172587号公報

スクリュー圧縮機において、ギア比を所定比とするものの周知例として。

#### 先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 IPC第7版 F04C29/00-29/10, 311  
DB名

・先行技術文献

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

#### 問合せ先

特許審査第二部 原動機・流体機械 杉山 豊博  
TEL. 03(3581)1101